

きじやま せいうんじ
キジ山古墳群・晴雲寺址

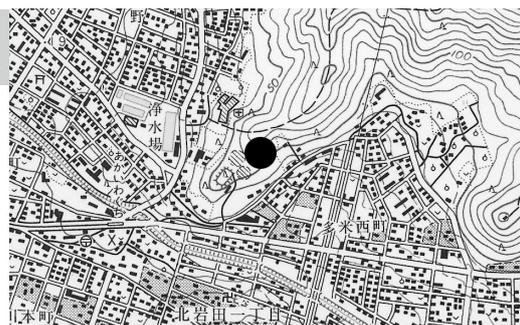
所在地 豊橋市多米町野中
(北緯34度47分22秒 東経137度26分15秒)

調査理由 愛知県水道用水供給事業

調査期間 平成22年10月～平成23年3月

調査面積 2,170㎡

担当者 鈴木正貴・永井邦仁



調査地点(1/2.5万「豊橋」)

調査の経過 調査は愛知県水道用水供給事業にかかる事前調査として愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。キジ山古墳群に該当する1,130㎡(KJ10A～C区)と平成21年度の範囲確認調査で判明した晴雲寺址に該当する1,040㎡(SU10A～B区)を発掘調査した。

立地と環境 遺跡は豊橋市街地の東方に位置し、山地から南西方向に張り出す尾根の端部に立地する。その南側には朝倉川が東西方向に流れる。キジ山古墳群は総計30基以上が分布する後期～終末期の群集墳である。一方晴雲寺址は尾根筋から西側斜面にあって吉田城と城下町を見下ろす位置にある。

調査の概要 KJ10A区では、終末期古墳1基を検出した。小型の横穴式石室(全長約1.7m、幅約0.7m)で胴張形の平面形をしており、床は礫が敷かれていた。石室内からの出土遺物はなく、もともと副葬品がなかった可能性が高い。石室前方斜面からは8世紀前葉とみられる須恵器杯小片などが出土しており、これらが墓前祭祀の遺物とすると、7世紀末～8世紀の終末期古墳と考える事ができる。墳丘直径は約6mである。

キジ山 34号墳 KJ10B区では、キジ山34号墳の周溝を検出した。周溝からは須恵器甕小片が出土した。また古墳築造の初期段階に地山を大きく切り出して斜面地を造成していたことも判明した。

後期古墳 KJ10C区とSU10A区では南西斜面にて新たに後期古墳2基を検出した。前者は、全長約2.5m以上ある横穴式石室とそこから延びる排水溝がある。排水溝などからは須恵器フラスコ瓶、杯身、短頸壺などが破砕された状態で出土した。石室に伴う排水溝は付近の稲荷山古墳群でも確認されている。後者は晴雲寺址礎石建物南側に位置し、石室前半を中心に残存していた。供献された須恵器杯や土師器甕が出土した。

晴雲寺址 晴雲寺址は文献史料によると、宝永5年(1708)に吉田藩主牧野氏の菩提寺として創建された浄土宗御津大恩寺の末寺で、2間半×3間の観音堂などがあったことが伝えられている。建物があったとみられる平場が2つあり、上段平場(SU10A区)では一辺約5mの概ね正方形となる礎石建物とその基壇が検出された。攪乱によって礎石は大半が失われていたが史料にある観音堂の可能性が高い。遺物は18～19世紀の陶磁器が多数あり、特に仏具は遺跡の性格をよく示している。

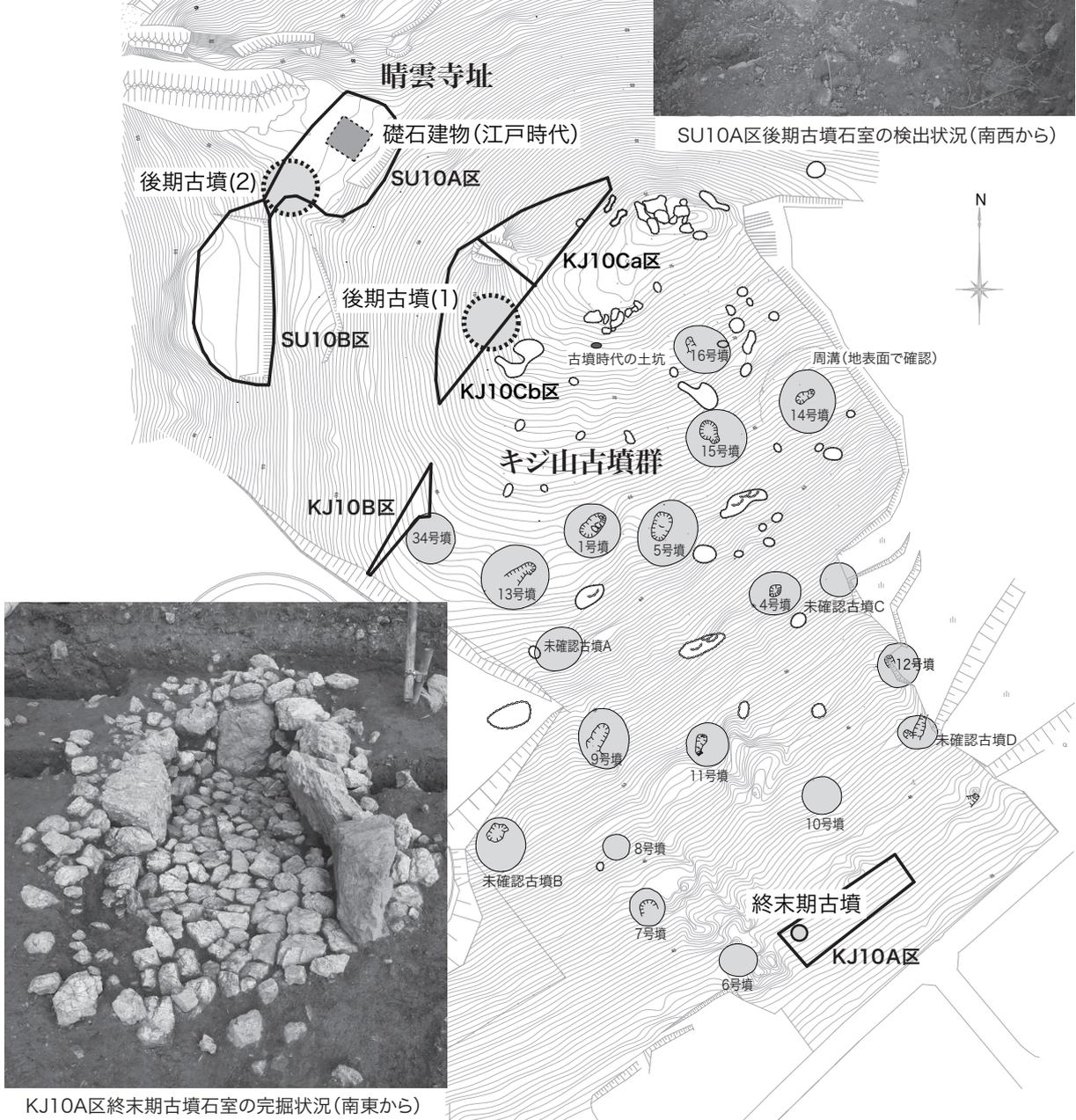
まとめ キジ山古墳群では4基の古墳を調査し、丘陵南西斜面にも展開していることが明らかになった。また小規模な終末期古墳は面的な調査によって初めて判明することが多く、古墳群の調査方法について再考が必要であろう。一方晴雲寺址は地方における江戸時代後期の小寺院に関する新知見となった。諸史料との照合が今後の課題となる。(永井邦仁)



SU10A区晴雲寺址礎石建物跡の検出状況(南から)



SU10A区後期古墳石室の検出状況(南西から)



KJ10A区終末期古墳石室の完掘状況(南東から)

キジ山古墳群・晴雲寺址遺構図(1:1,500)